

わかめオーナー制度での総合学習協力で地域貢献

横須賀市東部漁業協同組合

横須賀支所後継者グループ

栗山 義幸

1. 地域と漁業の概況 (図1)

横須賀市東部漁業協同組合は、神奈川県横須賀市の東京湾側に位置する組合で、横須賀支所ほか全6支所からなり組合員350名、水揚げ額約20億円である。

横須賀支所はその共同漁業権のほとんどを港湾区域、米軍制限水域等の制限を受ける漁業を営むには厳しい環境ではあるが85名が従事し、小型底引き網、刺網、たこつば、あなご筒、遊漁など多様な漁業を行っている。

2. 研究グループの組織と運営 (表1)

横須賀支所後継者グループは、支所の若者12名が日々の漁業活動での疑問や将来を話し合う場を持つべく、平成8年4月に結成した。主な活動として、先進地視察や魚類中間育成など、希望する者での積極的チームを作り、活動している。

積極的チームの理由として ①多種の漁業種類からの集まりであるため、活動できる時間が一致しない。 ②若い世代のつかみづらい目的意識などから、グループ全体での活動よりも「積極的に集合したチームで」となっている。

3. 課題選定の動機 (図2～6)

そのなかで平成9年、横須賀市商工会議所を中心とした市民グループ、よこすかイメージアップ会議より、横須賀支所後継者グループ宛て「横須賀市のイメージアップのためのイベントを企画している。若い漁業者の方にも参加してもらい、海からのイメージアップを企画してもらえないか。」との依頼を受けた。横須賀支所後継者グループの2名が参加し、企画提案する中で、体験漁業の案が持ちあがり、受入れ側とのすり合わせの結果、県内各地で行われていたわかめ狩を提案したところ会議委員より好評意見をとりつけ、交流人口を増やしたい、よこすかイメージアップ会議の目的と、地域のみで流通で、販路の伸び悩む猿島わかめブランドをもう少し地域外に広げたいというわかめ養殖漁業者との思いから実施することとなった。

受け入れ側として後継者グループより2名とわかめ養殖漁業者3名で「わかめオーナー制度」実行チームを作り、新聞や地域広報誌を使って参加募集をしたところ県内外より500組、700名以上の応募があり、目的の交流人口拡大とわかめブランドメジャー化作戦から、市外の応募を優先し、安全面、受け入れの限度から、120組350名に招待状を発送した。参加者はわかめ種苗を種網に差しこむ作業と、自分の差した目印に名札をつけてもらう1日目。3ヶ月後自分の差した種

苗から刈り取り、持ちかえってもらう2日目と、2回にわたり横須賀の海に来てもらうという企画をした。当日の運営、種を差したオーナー種網の管理など、横須賀三浦地区農政事務所農政部水産課の普及員の協力を得つつ、刈り取り当日までわかめ養殖業者のイカダ内空き列を利用して育てた。刈り取り当日は、イメージアップ会議から8名、オーナー制度実行チーム8名、農政事務所の普及員2名で参加者の差しこみ作業した種網をイカダ内から引き上げ、差しこみ時につけた名札の所より刈り取り、わかめみそ汁を試食してもらい、沖の養殖イカダまでの見学船を運行し、育った環境を見てもらう流れで無事終了した。

参加者の感想は「農業には(畑のオーナー)よく参加するが漁業は初めてだ。大変なのしかった。」 「こんなに収穫できるなんておどろいた。」 「さつそく家へ帰ってのわかめサラダがたのしみだ。」など、おおむね好結果となった。好評であったが単発のイベントの約束だったため、イメージアップ会議からの経費面での支援が受けられなくなり、実行チームは解散した。

それから数ヶ月後、地元小学校より、「春のわかめ狩に参加した者ですが、ぜひうちの学校の子供達に地域の産業を知る総合学習の一環として、生徒対象にわかめオーナー制度をやってもらえないだろうか。」との要望が寄せられ、単発だった企画を復活させることとなった。

当初、実行チームを作るにあたり、わかめ養殖漁業者に対し、販路の拡大、わかめ狩の事業化を提案していたので、小学生、しかも3年生、10歳を相手にすることなど「むだでしょう。」「やっても効果ないよ。」の意見が出たが、これも「将来のお客さんだと思って。」とか「3年生の親は30代だから客になる。」などかなり無理な説得ではあったが、わかめ養殖漁業者に次の年への協力を取り付けることができた。また、継続的に行うための障害となっていた経費面は学校負担の障害保険や事務経費削減で解消し、さらに、わかめ養殖漁業者の休日を利用した業務に支障のない日程を組み、平成10年、横須賀市立田戸小学校3年生70名を対象としたわかめオーナー制度特別編がスタートした。

4. 実践活動 (図7~11)

特別編は小学校向け専用わかめ種網の制作から始まった。子供の手でも広げて種苗を差し込める柔らかい種網、イカダ内への割り振り、子供の安全のための港内清掃作業、危険と思われるところへの立ち入り制限ロープ張りなどの対策を経て、平成10年11月10日、子供達を港に呼び、2列縦隊に並ばせ、種網を挟み2人1組で種網を広げ種苗を挟み込む作業を行わせた。種苗はまだ10mmほどだったので「これがわかめなの？」と質問されましたが、「3ヶ月経つとあなた達より大きくなるので大切に差してあげるように。」との説明に納得したようだった。種苗を3本ずつ差し、自分の名前の札をぶら下げて、終了した。管理すること3ヶ月2月10日、刈り取り日となった。この年は順調な成長をし、1株で5-6本、長さ2mほどに成長した。集合した子供達を種差しの時と同様に港の斜路に並ばせ種網ごと引き上げて来たわかめの刈り取に移った。自分の書いた名札を見つけると、その成長に驚きの歓声があがったが、濡れたもの(わかめ)、水に触れること

を極端に嫌がり、刈り取り用の包丁を持っているにもかかわらず自分で刈り取る子はなかなか出なかった。わかめは食べられることは分かっている、しかし、生の、それも生きたわかめを見たことがない。このあたりにわかめの販路が伸び悩むわけ、宣伝の大切さを見た気がした。横須賀市内でも生のわかめを売っている店は少なく、採れる事も知らない市民も多いのではないかと思われた。われわれが切ると持ってきた袋に入りきれないほどの収穫となった。学校に帰った子供達はわかめ養殖漁業者から習った、わかめ干し加工を体験し、残りをわかめみそ汁給食で試食した。

後日お礼の手紙をもらって実行チームは感動していたが、書いてもらった手紙の中にわかめの絵も描いてあった。みな一様に緑色であった。最近わかめ養殖漁業者が販売において、客から付くクレームに「緑色ではないのでいたんでるんじゃないのか。」「色が悪い、不良品ではないのか。」などの意見が寄せられている。答えるに「生の状態でうす茶色、湯に通して緑色、従ってどちらもわかめ色で。」などと答えているわけだが、子供達も緑色の状態で生育していると思っているようだ。このあたりにも宣伝の必要を感じた。子供相手ではあるが70名のモニター調査をしたようだった。今後の養殖販売に大変参考になった。

つづく平成11年も、昨年PTAの皆さんからも大好評だったとの連絡を受け、本年もお願いできませんかの要望に答えるべく、「PTAに人気ならやがて客になることうけあい。」などとまたムリな誘いをかけチームで行うこととした。この年は、差した種苗の食害がいちぢるしく、極端な収量不足となったが、あえて増し差しの手を加えず、刈り取り時に下げた名札のところに株がないのを食害のためと説明したところ、わかめを食べる魚のことで、その後何日にもわたり子供達のグループが港に質問に来て、対応に追われた。

さらに本年度、平成12年度も毎年の恒例行事となっておりますので是非お願いいたしますの要望に答えて継続中である。本年は種差しと刈り取りの間の成長を観察するため、PTA対象にイカダ内観察会を開いている。

5. 波及効果と今後 (図12)

申し上げたいのは、①継続的に小学校の総合学習に協力するため、経費を極力削減し、業務の合間を使った各自に負担のかからない方法で、学習と言う主旨から営利を目的としない。②地域との交流が少ない都市型漁業を理解、応援してもらうための交流の場となったこと。③「わかめがうまい、地元でも採れる」など将来の顧客となりうる子供に知ってもらったこと。④「わたしもわかめを栽培したい」や「漁師になりたい。」など将来を期待したくなるような感想文を書いた子があったこと。⑤子供の質問に答えているうちに、漁業者は海や魚のことを教えられる数少ない職業であるという認識を得た。チーム結成時の説得材料の新規顧客獲得効果は今のところ出ていないが、その影響は計り知れないものがあるような気がする。漁家の子弟だけでなく、やる気のある後継者を求めるため、わずか10歳だが記憶のどこかに留めてもらえたものと考え。10年後、「漁業に就労したい。」という申し込みがあるのを、ひそかに期待している。

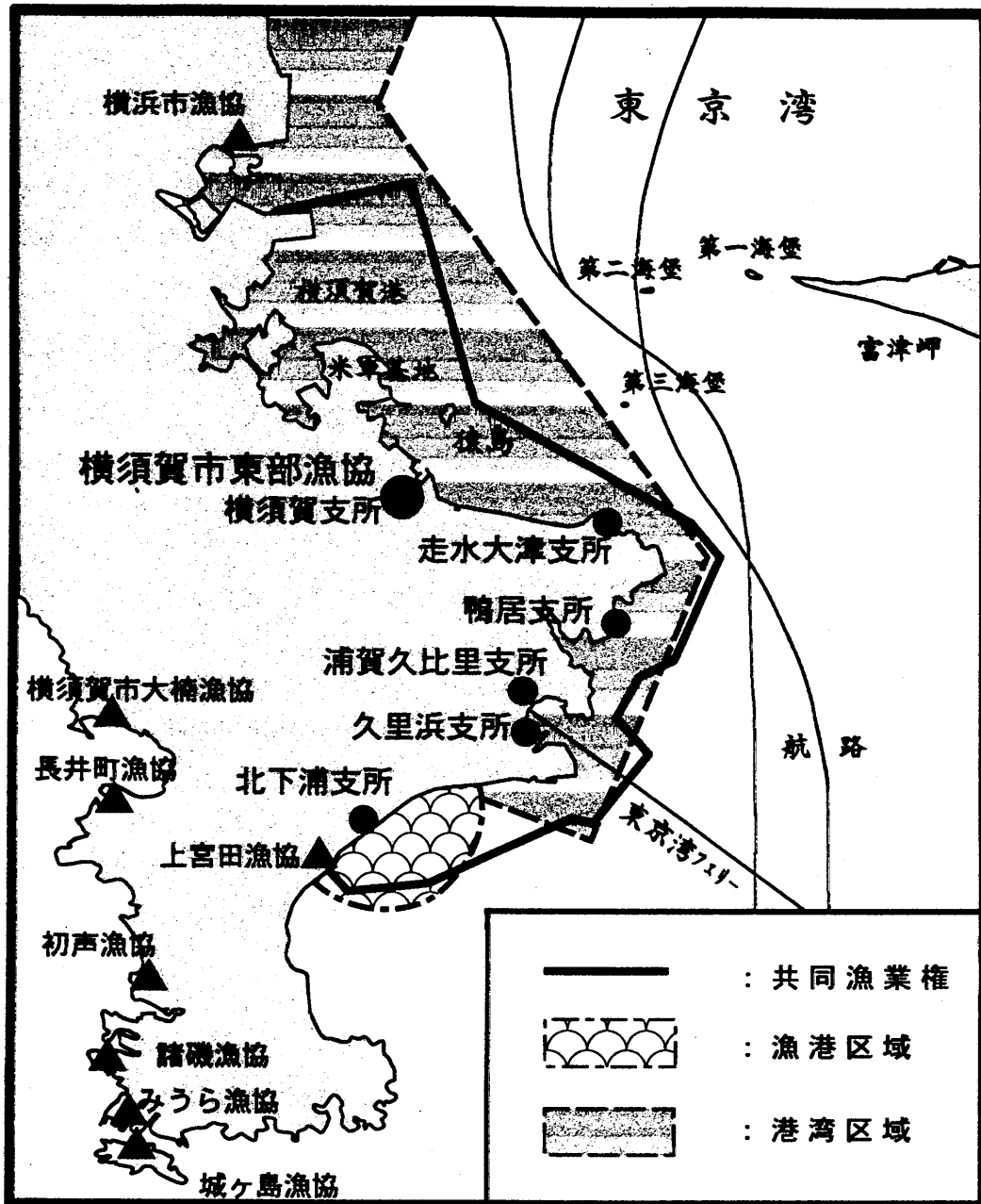


図1 横須賀市東部漁業協同組合の共同漁業権及び地域の概要

表1 横須賀支所後継者グループの構成員年齢(日12.12末日)及び漁業種類

	年齢	小型底びき網	刺網	小型巻網	たこ壺	あなご筒	わかめ養殖	遊魚	その他
1	37			●			●		
2	35	●							
3	33		●						
4	31		●		●	●			●
5	30		●				●		
6	29		●						
7	29	●			●		●		
8	27	●							●
9	27		●						
10	25		●						
11	24							●	
12	23		●						

この企画はイメージアップよこすか市民会議が主催し、横須賀市東部漁協横須賀支所猿島わかめオーナー制度実行委員会が実施するものです。
横須賀の海の環境、重要性を養殖わかめ漁業体験を通して知ってもらおうというものです。

1997 猿島わかめオーナー制度

11月22日 (土)

- 養殖わかめの話
- 種苗差し込み作業体験
- 養殖海域見学船乗船
- マリングッズ抽選会
- 魚業者自らの加工による製品販売

2月14日 (土)

- 養殖結果報告
- 養殖筏水揚げ作業見学
- 刈り取り作業体験
- 一番採りわかめみそ・軽食サービス

イベントの性質上2日間参加して頂きます。ご了承下さい。
雨天決行です。

ところ

横須賀市東部漁協横須賀支所
横須賀市平成町3-4
電話 0468-22-1052

注意事項

1. 障害保険加入の都合上、参加者の変更はできません。
2. お子様の参加を歓迎しますが、安全対策上、小学生以上とさせていただきます。必ず、保護者同伴にてお願いします。また、安全の最終責任は保護者の方々にありますこと、ご理解いただきますようお願い致します。
3. 11/22・2/14両日、養殖海域見学船を運行しますが、乗船は希望される方のみ、また強風の場合、主催者が危険と判断した場合は運行を中止することがありますので、ご了承ください。

猿島わかめオーナー制度実行委員会

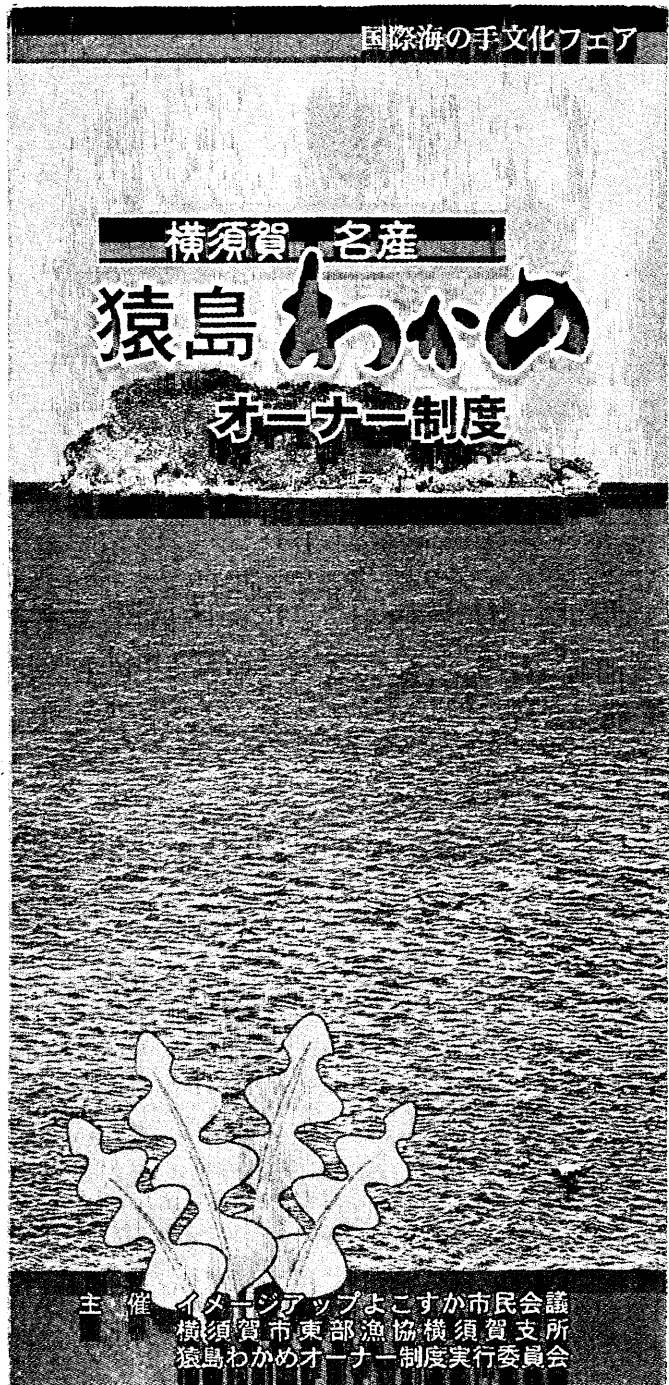


図2 H9年度「わかめオーナー制度」パンフレット

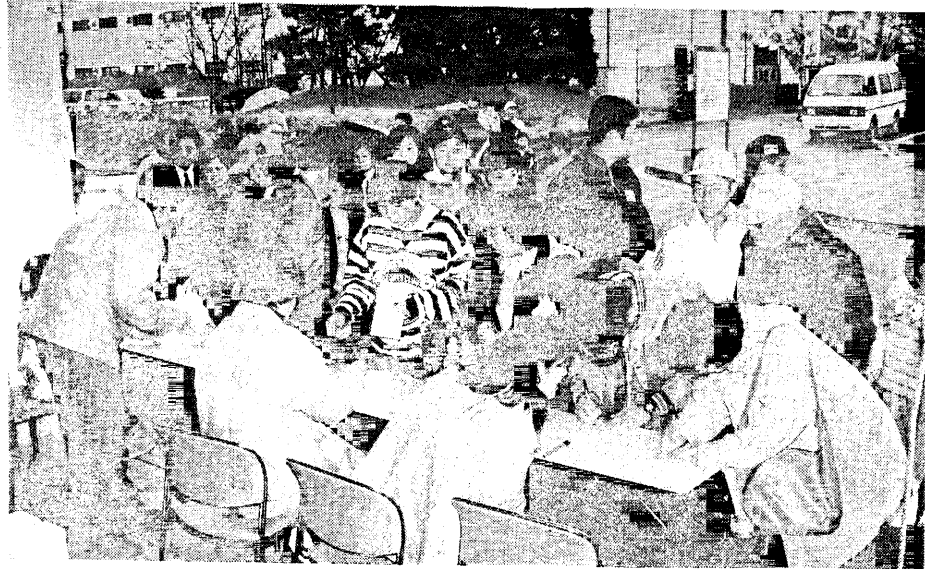


図3 H9年度 受付（種差し日）

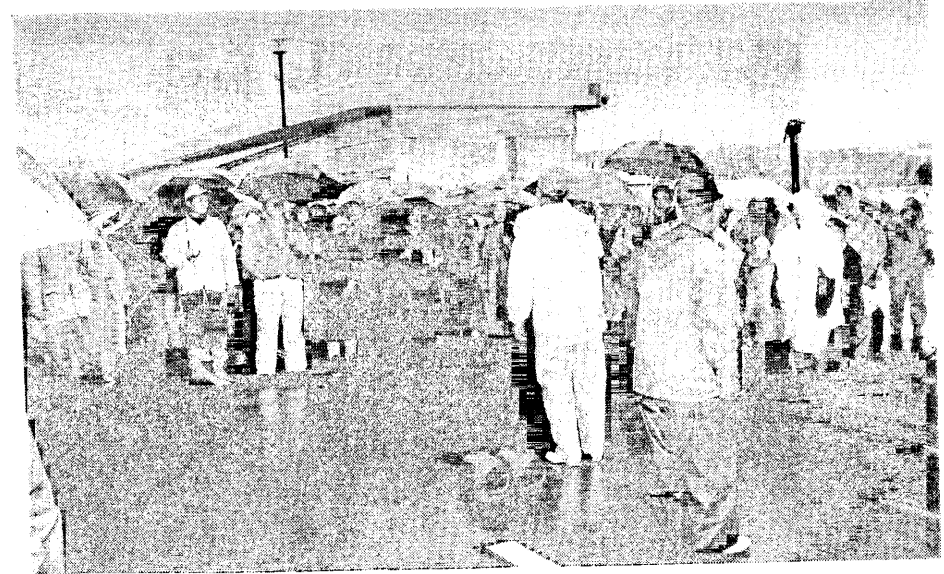


図4 H9年度 説明

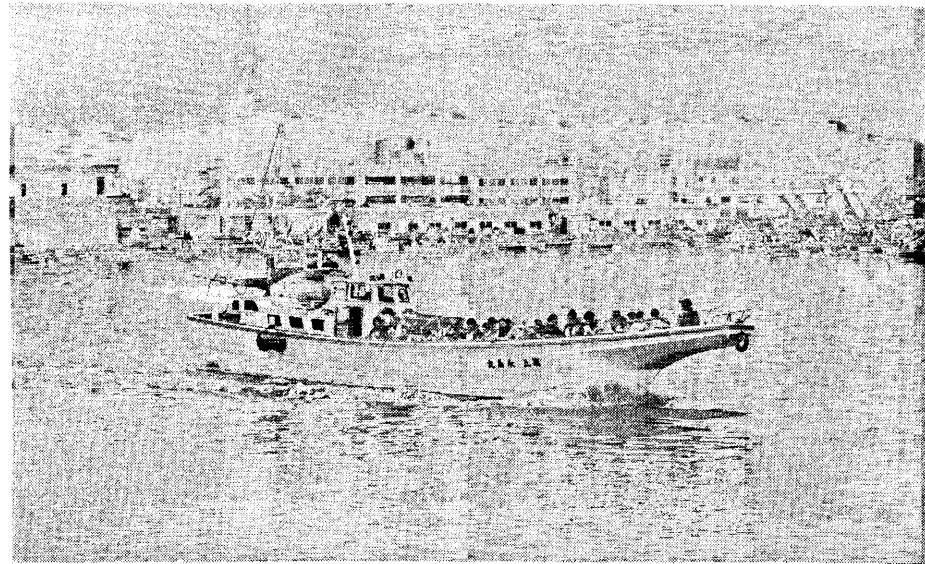


図5 H9年度 養殖イカダの見学

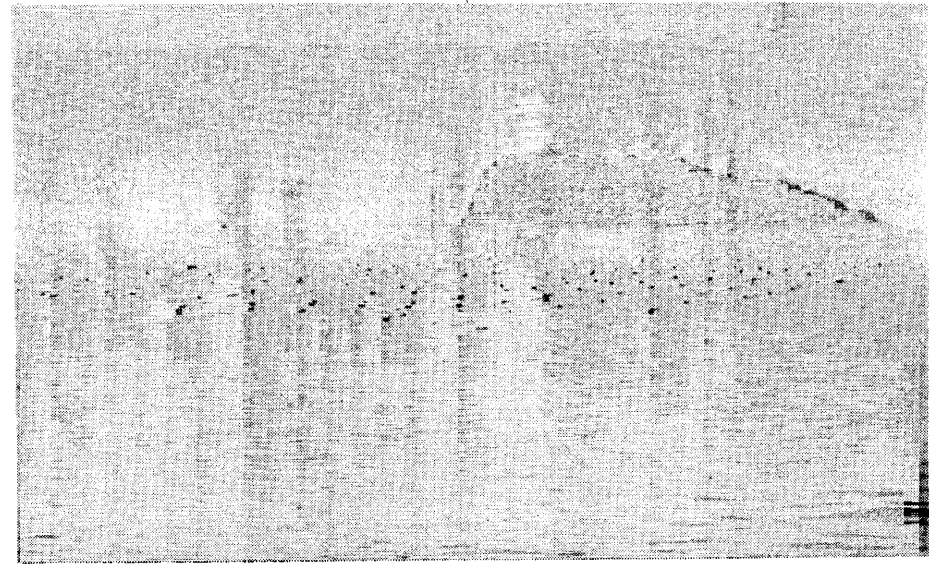


図6 猿島周辺の養殖イカダ



図7 小学生の種差し (H10年度以降)

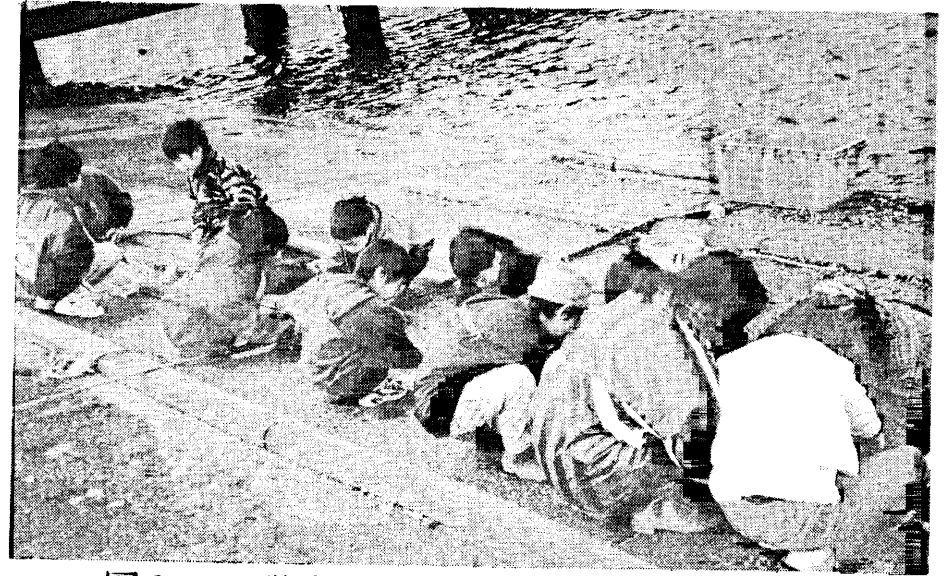


図8 小学生の種差し、2列に並んで実施



図9 小学生のわかめ狩り



図10 小学生のわかめ狩り

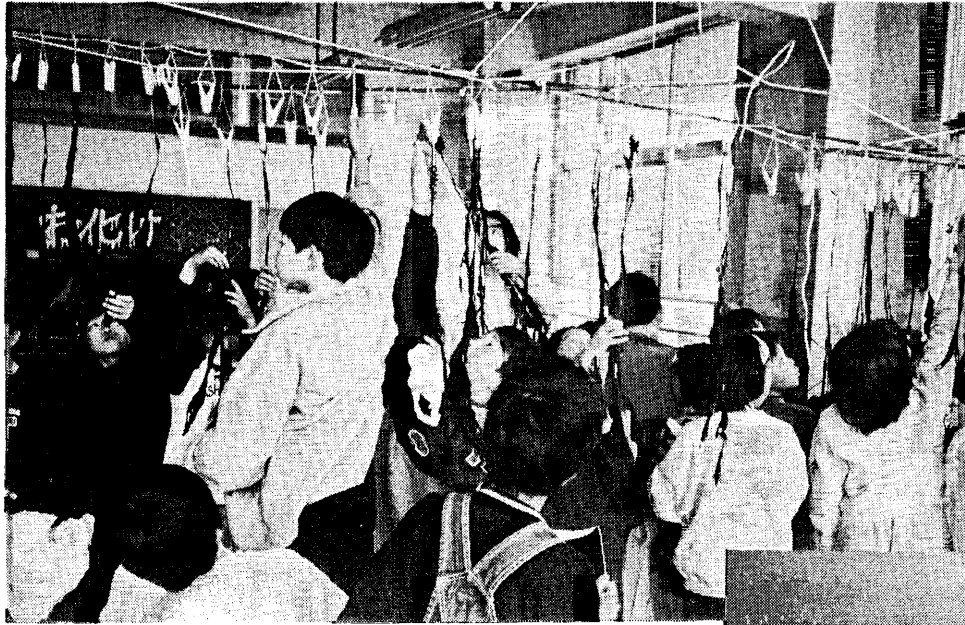


図 11 小学校でわかめ干し加工を体験

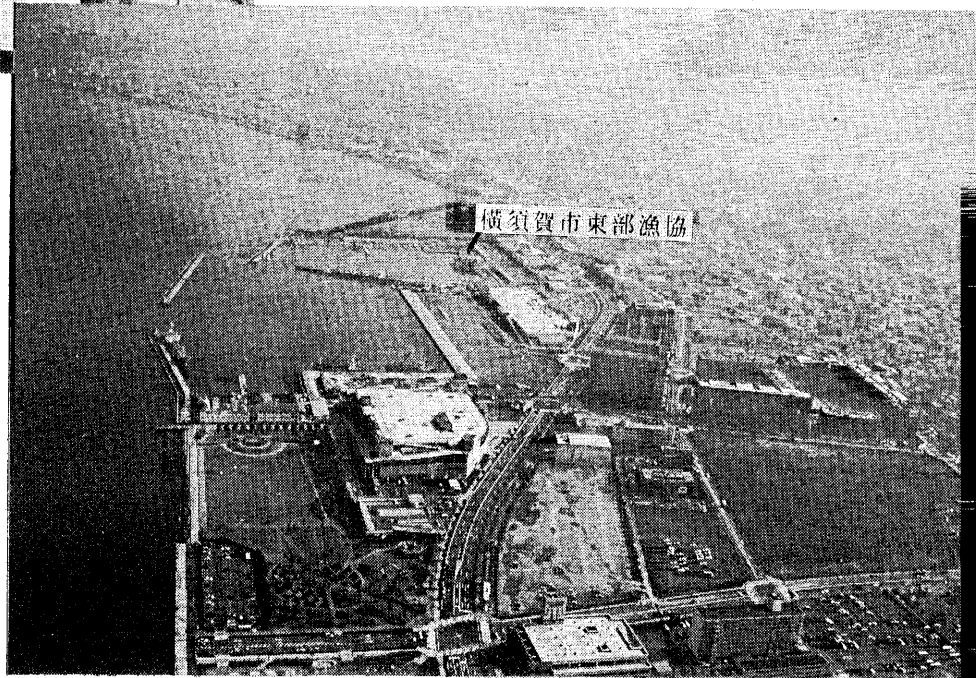


図 12 開発の進みつつある横須賀市東部漁協周辺